

2017 Suzuka 8 hours FIM Endurance World Championship

Media Information ●2017年8月2日発行



au & テルル・Kohara RT

2016-2017 FIM世界耐久選手権シリーズ(EWC)最終戦
“コカ・コーラ”鈴鹿8時間耐久ロードレース 第40回大会
三重県 鈴鹿サーキット(1周=5.821km)

予選: 20番手 (タイム: 2分11秒070)

決勝: 12位

天候: 7月27日(木)曇り 路面: ドライ

7月28日(金)晴れ 路面: ドライ

7月29日(土)晴れ 路面: ドライ

7月30日(日)曇り 路面: ドライ

観客動員数(4日間合計): 128,000人



■Class : EWC ■Machine : Honda CBR1000RR SP2

ノントラブルで走り切った8時間

2017年で40周年を迎えた“ハチタイ”こと鈴鹿8時間耐久ロードレース。今年、FIM世界耐久選手権シリーズは、昨年9月にスタートし、年をまたぎ、ここ鈴鹿で最終戦を迎えるというスケジュールとなつたため、大いに盛り上がつた。

au & テルル・Kohara RTは、今年もエース・秋吉耕佑を中心とするスーパースポーツ世界選手権を戦う大久保光、そしてMotoGP™ロードレース世界選手権Moto2™の長島哲太という、おなじみのメンバーで挑んだ。

だが、その道のりは決して平坦ではなかった。今シーズン、ニューモデルとなったHonda CBR1000RR SP2のセットアップに苦戦。全日本第4戦MOTEGIでようやくいいフィーリングが出て来た矢先に秋吉が転倒し左手を負傷してしまう。第5戦オートポリスには、大久保が事前テストなしで代役参戦するが、マシントラブルに見舞われ、満足に走れる状態ではなかった。



そんな決していい状態ではないまま鈴鹿8耐に向けた事前テストに突入。秋吉は、7月1週目のテストは、ケガの状態を見つつ、大久保と長島のライディングを見ながら、マシンセットを提案し、小原とメカニックとセッティングを進めて行く。しかし、ここでも転倒やトラブルがあり、思うようにセットを進められないままレースウイークを迎えていた。



レースウイークでは、トラブルを出さずに完走するためには、確実に走りきれる状態ではなくてはならなかつた。その点、思い切り走れないのは、ライダーにとっては辛いものであったが、そこは耐久レース。アベレージスピードと燃費の妥協点を探りながら、3人のタイムを上げて行った。

今年から公式予選は、3人の平均タイムで争われることになっており、トップ10に入るためには、2分10秒を切ることが一つのターゲットとなつていて。また、タイヤ本数制限もあるため、決勝を見据え、どうタイヤを使うかも考えて予選を戦わなければならぬ。ライダープレーの秋吉は、2分10秒411、ライダーレッドの長島哲太も2分10秒618を記録するが、大久保は、2分12秒182となり、平均タイムは2分11秒070で20番手グリッドからスタートすることになった。



今年は、長島がスタートライダーを初めて担当。マシンに駆け寄るル・マン式スタートでレースが始まった。ここでエンジン始動に手間取ってしまい大きく遅れてしまう。何とオープニングラップを終えた時点では、35番手。そこから1台、また1台とかわして行く。空からは雨が降り始め、西コースでは強く降り、東コースでは、ほぼドライという、1周が長い鈴鹿なら



ではの難しいコンディション。その中を長島は、着実にポジションを上げて行き14番手で秋吉にマシンをつないだ。続いて大久保が出て行き15番手前後をキープして行く。そんなライダーをチームスタッフも完璧なピットワークでバックアップ。ジリジリと順位を上げ、最終走者となつた秋吉を送り出すと、鈴鹿サーキットは夕闇に包まれて行く。そしてチェックカーフラッグが振られ12位でゴール。決して満足行く結果ではなかつたが、8時間をノントラブルで走りることは、なかなかできること。現状ではベストを尽くしたと言えるだろう。



秋吉耕佑 コメント

「ニューマシンを仕上げるために、とにかく時間が足りませんでした。その中でレースウイークでは、安定して走らせるができる仕様を考え、それを実行しました。そのおかげで決勝では、ノントラブルでしたし、チームもノーミスでピットワークをごなしてくれました。この経験を次のステップとして、目前にある全日本後半戦につなげて行きたいですね。今年も多くの応援ありがとうございました。」

大久保光 コメント

「今年もau & テルル・Kohara RTのライダーとして鈴鹿8耐に呼んで頂きましたが、思うように走ることができずチームや応援してくださった皆さんに応えられなかつたのは悔やまれる部分です。ただ、今年もいろいろなことを学ぶことができたので、この経験をワールドスーパースポーツに生かして行きたいですね。」

長島哲太 コメント

「久しぶりの鈴鹿8耐は、楽しかったです。初めてスタートライダーも担当させていただき、いいパドルができました。序盤の雨は、難しかつたですが、3回走らせてもらい、ベストタイムもマークできましたので、すごく自信になりました。この経験をシーズン後半戦に生かして行きたいです。チームの皆さんを始め、応援してくださった皆さんに感謝いたします。」

小原 齐 監督 コメント

「ここ数年、予選せぬトラブルに見舞われてしまい、不完全燃焼な鈴鹿8耐が続いていました。今年もニューマシンとなり、秋吉のケガもあった中で準備万端と言える状態ではなくレースウイークを迎えましたが決勝では、ルーティンワークを含めトラブルなくミスもなく、ほぼ完璧に8時間を行なせていました。12位という結果は、決して満足できる結果ではないですがいまのチームの実力を受け止めレベルアップを図っていかたいと思っています。今年も多くの方にご協力いただき、無事に走り切ることができました。ありがとうございました。」

au & テルル・Kohara RT

〒 336-0977 埼玉県さいたま市緑区上野田607-1
TEL.048-878-7020 FAX.048-878-5688